

令和6年度 清水町総合教育会議 第2回会議議事録（要旨）

1 日 時 令和7年3月26日（水）

開会時刻 午前10時30分

閉会時刻 午前11時58分

2 場 所 清水町役場 4階第1会議室

3 構成員 町 長 関 義 弘

教 育 長 杉 田 暁 彦

教育委員 半 田 昭 博

教育委員 渡 邊 若 菜

教育委員 深 澤 朱 美

教育委員 望 月 めぐみ

オブザーバー 副町長 秋 山 治 美

総務課長 大 野 明 彦

企画課長 前 川 仁 志

事務局	教育総務課長	吉 田 剛
	こども未来課長	小 松 義 和
	社会教育課長	大 嶽 知 之
	教育総務課参事	田 中 道 雄
	教育総務課課長補佐	鈴 木 健 次
	教育総務課管理主幹	木 又 沙弥香
	教育総務課管理主幹	齋 藤 啓 子
	教育総務課主幹	高 柳 康 雄
	町立西小学校 校長	川 口 哲 一

4 議 事

(1) 外国籍児童生徒の現状とその対応について

【町長】

近年、本町では外国籍の人口が増加傾向で、町内の小中学校・幼稚園・保育所に通う外国籍の子どもたちも増えている。担当課からは、その対応に苦慮しながらも、教育現場では工夫をしながら対応をしていると報告を受けているところであり、今後も継続して様々な対応をしていかなければならないと考えている。

ついては、委員の皆様から、現在の状況に対しての感想や提案をはじめ、今後の外国籍児童生徒対応について、御意見をいただきたい。

最初に、現状等について担当課から説明する。

説明

➤「清水町の外国籍児童生徒の推移について」

【教育総務課長】

過去5年間の学校ごとの児童・生徒数を比較すると、西小学校と清水中学校の子どもたちが圧倒的に増加している。

外国籍児童生徒数を「率」で表すと、令和6年5月1日時点で、西小15.4%、清水中7.8%、町全体で5.3%である。近隣市町と比較すると、御殿場市1.6%、裾野市と小山町は0.7%、長泉町0.4%、沼津市1.7%、三島市0.6%であり、本町の外国籍児童生徒の率は県東部、伊豆地域では圧倒的に高い状況である。

本町より高い率を示している県内の市町は、菊川市7.1%、湖西市6.5%、袋井市5.7%であり、清水町は県下で4番目に高い自治体である。

本町における外国籍児童生徒数は、右肩上がり推移している。今後も少子高齢化による日本の労働力の人手不足などから外国籍の人口が増加し、その子供たちが増えていくことが予想されるので、皆様の御意見を拝聴できればと考えている。

この後、多くの外国籍児童に直に接し、学校現場で試行錯誤していただいている西小学校長に、これまでの経過やその対応についてお話をいただく。

➤「西小学校での外国籍児童生徒に対するこれまでの経過や対応等」

【西小学校 校長】

1 外国籍児童の推移

西小学校に校長として2年間在籍していたが、赴任した当初、ある学年主任から、「とにかく外国籍児童が多くなってきて大変です。校長先生何とかしてください。」と話をされ、最初の1年目は、実態把握と情報の収集を主に取り組んできた。

私が教頭として赴任していた平成29年度の外国籍児童の割合は10.9%、それが令和7年度予定では19.3%と10%近い伸びになっている。平成29年度当時の印象は1クラスに2～3人ぐらいの外国籍の児童がおり、休み時間なども日本人の子ども達と自然と触れ合うような感覚であった。それが1クラスに5～6人となると、クラスの中だけでも外国籍児童が集まり、休み時間などに日本人の子と触れ合う必要性がなくなってくると感じた。

2 令和5年度の外国籍児童対応

令和5年度に入国したばかりの外国籍の子どもの転入の際には、教育総務課から「外国人の子どもが転入してきて、これから学校に向かうので、転入手続きをしてください。」と電話があり、その日の放課後に来校し、2～3時間を費やして説明をしただけで、その翌日にはもう教室に入っていく状況であった。そして、その子が教室に来た初日は、8時からの朝の会の時間に、廊下で保護者と20～30分程度話をして、その間に子どもたちだけで朝の会を進めていくような光景を目にして、どうにかしな

ければならないと改めて思った。

3 令和6年度の外国籍児童対応

令和5年度に、このような外国籍児童の実態を確認してきたことを踏まえ、令和6年度当初の会議で、「多様性・多文化共生の面が本校の特色であり、児童にとっての強みでもあるが、どの学校でも抱えている教育課題である、『学力保障』『生徒指導』（出欠席）『特別支援教育』『就学支援』『就学援助』『校納金未納』等において、外国籍児童の名前が挙がってくるという課題がある。」という話をした。

外国籍児童の『学力保障』として、学力未定着の子はどのくらいいるのかを、定着度調査の結果から見ると、全外国籍児童中、国語においては84.7%、算数においては74.6%が未定着という結果になっている。『生徒指導』として不登校の観点で見ると、不登校児童88名中43名が外国籍児童である。『特別支援教育』『就学支援』『就学援助』でも対象児童の中に多くの外国籍児童が挙げられている。『校納金未納』については、今年度1月末の段階で、未納者70名中42名(60%)が外国籍児童の家庭であり、これらの数値を見ても課題であると感じた。

令和6年度は町教育委員会の配慮もあり、通訳のできる外国籍児童生徒等学校生活支援員の派遣時間の増、そして日本語指導教室の『めぐみ教室』を1教室から2教室に増やすことができた。校内では、『めぐみ教室』の担当の先生をセンター長として位置づけ、様々なつなぎ役となってもらった。

令和6年度の取り組みの重点が2つあり、1つ目は、日本での生活経験のない児童の転入時に、町教育委員会に編入時期の弾力化を協力していただき、転入の日に学校に手続きに来て、翌日から学級に入るということが無くなり、学校に来る前に町教育委員会（役場）で児童や保護者へのリサーチ、アセスメントを行っていただいた。

二つ目は、学校での取り組みとして、(仮称)初期指導対応教室として、担当教員を2週間その子に充てて、取り出し授業を行った。令和6年度は、9名(7家族)の外国籍児童に対して、(仮称)初期指導対応教室を行ったところ、子どもの不安感を取り除けたのではないかと感じた。そして、毎日、保護者に送り迎えをしてもらい、そこで、保護者とやり取りができるため、担任ではないが、子どもと関わっている職員が保護者と話すことにより、これまで2～3時間だけの説明であった部分を、丁寧に、「こういうものが必要ですよ。」「こういうお金がかかりますよ。」「こういうところを協力してください。」「学校というのはこういうところなんですよ。」ということ、直接保護者と話せるメリットがあった。

4 今後に向けて

今後に向けて、2年間校長として西小学校にいて感じたことや願いとして、一つ目は、一口に外国籍児童といっても、学力だけとって見ても大きな個人差があるということで、まずは、その子が母語を身に付けているのか、少なくとも英語を身に付けているのか、そして、その子の元々持っている資質や能力、学ぶ意欲などに非常にばらつきがあるということである。これは、個々が学校の中で頑張っていかなければならないことであり、そのような個人差に対する指導への対応が必要で、これは、日本の

子どもに対しても同様であるが、西小の教員はそういう部分に敏感になっており、当たり前のように、個人差対応をしなければ教室が成り立たないという実態がある。

二つ目は、就学願を申請してくる外国籍保護者に対し、町教育委員会(役場)での受け入れ段階で、児童の将来的な就学や就職のイメージを確認していただくということの重要性である。令和6年度から町教育委員会で対応していただいているが、『子どもの将来をどうしていきたいのか。』『中学校を卒業した後どうするのか。』などの説明は、学校現場に来てからでは大変困難であり、また、就学を認めるのはあくまでも教育委員会であるので、今後も町教育委員会(役場)での受け入れの段階で、保護者への指導や心構えのような部分を理解させてから、在籍校へ進ませる道筋をつけていたきたい。

三つ目としては、外国籍家庭を支えていくシステムの構築についてである。例えば、親からの連絡はあるが1週間位学校に来ていない子などの確認のため家庭訪問に行く際に、通訳が同席しないと玄関を開けてもらえない場合がある。通訳の方がフィリピン語やタガログ語を話すことにより、保護者も安心して開けてくれる場合が多いので、担任の先生が気軽に夕方に寄っていくというわけにはいかなく、学校体制で取り組んでいかなければならない。訪問をすると、家庭環境が見えてきて、本当に目いっぱい生活をしており、このような中で、学校に子どもを送り出すのは大変なことなのかと感じた。防災、防犯、安全面や環境面など様々に危惧される状況を考えると、将来的に不就学や不明児童生徒が増えないように、外国籍の家庭を支えていくシステムが必要だと思う。

最後に、『地域にとっても家庭にとっても、子どもは宝物であり、家庭と同じ方向で協力しながら支援していくというのが大事である。』と、本校のスクールソーシャルワーカーからコメントをいただいた。

教育委員からの意見

【委員意見】

先日、西小学校に入学する前の段階の、清水西幼稚園の卒園式に出席したが、23人の卒園児の内13人が外国籍という状況で、インターナショナルな幼稚園だと感じた。そして、園長先生の祝辞では、通訳がいらないよう、事前に英語と現地の言葉に翻訳されたプリントが配布され、外国籍の保護者にも園長先生の話が分かるように進められていた。卒園式では子どもたちが幼稚園での楽しかったことを発表していて、日本人の子も外国籍の子も、変わりなく仲良く健やかに生活してきたという印象を受け、真っ白な心のかわいらしさを感じた。園長先生と話をしたところ、来年、日本語がわからない状態で入ってくる年少クラスは、『日本人の子と外国籍の子を、最初の段階で別々にする。』という工夫を考えているとのことであった。学校も大変であるが、町内の幼稚園や保育所も大変であるということを痛感した。

西小学校の外国籍児童への対応について、先日の清水町教育研究奨励賞を受賞された教育研究論文を拝見して、きめ細かで丁寧な対応がなされていると感じた。そして、

町からの支援においても、支援員の配置など、清水町として最大限の配慮がなされているということを痛感した。

学校からのお便りはスマホで見られるようになっているが、外国籍の保護者に対し、英語、フィリピン語、タガログ語などに翻訳したものを配信するなど、本当に丁寧に対応していることがよくわかった。

先ほどの校長先生の話の中で、『学力保障』『生徒指導』などの問題が挙げられていたが、私が学校に勤めていた時にも、外国籍の子が多い学校では、給食費の未納や生徒指導上の問題、それから、国によっては雨が降ると学校を休む習慣など、生活習慣の違いがあり、学校の苦労の大変さを知っているの、これだけ外国籍が多い西小学校は、他の学校よりも大変であるというのは痛感する。

このような中、子どもたちは外国籍の子を差別することなく、とても偉いと感じるが、そのような人権的な立場からも、外国籍の保護者は満足しているのではないかなと思う。今後は、西小学校が外国籍の保護者から人気上がり、更に増えていくのではと感じるが、そのような中で、学校運営協議会のメンバーに外国籍の保護者を入れれば、不登校や未納などの様々な問題を相談しながら、一緒になって動いてくれるのではないかなと思う。

また、外国人の保護者会があるのであれば、非常に良い支援体制であると思う。

それから、外国籍児童の保護者を労働者として雇用する企業や派遣会社等で、外国籍児童の受け入れ時などのサポートをしてもらえるよう、町から働きかけができないか。

外国籍対応に苦慮している中、日本人の保護者から日本人児童の学力のレベルが低下してしまわないか心配する声は挙がっていないか。今の学習集団の中では学力の向上が心配だという日本人児童・保護者が、中学校は私学を目指すという傾向が高まるのではないかな、という心配もある。

外国籍対応だけでなく様々な問題への対応で、本当に西小学校の先生には特別手当をあげたいくらいに大変な思いをしてるのではないかと先生方の苦労を感じるばかりで、これ以上の事はできないくらいの取組がなされてると思っている。

【委員意見】

今回の議題について、清水西幼稚園での読み聞かせや西小学校の『放課後めぐみ教室』でサポートをしている方に感じていることを訪ねたところ、「同じ国から来ている仲間がいなく、孤独感を感じてしまう子もおり、一人ぼっちと感じてしまう前に、相談できる相手が欲しいのではないかな」と言っていた。やはり、困っていることを相談しやすい環境づくりをしてあげることが大切だと思う。また、他のボランティアの方からは「この子たちが中学生になった時に、中学校でどのようなサポートをしてもらえるのか心配している方がいる。中学校に入ると授業が難しくなり、日本語の壁も高くなるので、その中で中学校の授業についていけるのか、さらに、具体的な卒業後の進路について、ボランティアも知っておいたほうがいい。」と思ってる方がいると聞

いた。以上の2点がボランティアの方からの意見と質問である。

最近、私自身が感じたことでは、先日西小学校に読み聞かせに入ったクラスで、火災報知機の誤作動があった時に、クラス全員の子がハンカチで口を覆っている中、外国籍の子が一人だけ、その行動をとれないでいた。その時に先生が、ハンカチを持ってくるように声をかけていたが、理解できていない様子であった。西小学校の保健室の前には、『ハンカチを持参しよう』というポスターが貼ってあるが、このポスターを見て外国籍の子たちが理解できているのだろうかと思い、そのような習慣の違いや環境を考えると、精神的に傷ついて学校に来れなくなるようなことが無いよう、現場で配慮しなければならないと考えた。

それから、以前西小学校で授業参観をした時に、絵の具を兄弟で貸し借りしてる姿を見て思ったことだが、日本の学校では多くの学習教材をそろえなければならない、教材費も大きな負担となっている。衛生面の理由で 共用出来ない物以外で、共有できる教材は学校で準備し、足りなくなったら補充するというのはどうか。他県では公費負担により取り組んでいるところもあるので、将来的には検討課題として考えたかどうかと思った。

【委員意見】

まず、私の第一声として、清水町では現状をよく理解し、工夫や支援を広げようとしていることが日々よく感じられ、素晴らしいと思う。

私の体験談になるが、以前、フィリピン国籍の児童にピアノを教えていたことがあるが、その時の印象は、一言で言うと、大人も子どももとても人懐こく、陽気で明るい人たちであった。アパート1戸に複数の家族で住んでいて、子どもの送迎など、お互いに助け合って生活していた。ただ時間を守るとか、約束を守るという意識が希薄なのか、指摘してもその反省を今後に生かすということはありませんでした。文化や生活習慣が違うので、日本の学校教育に慣れてもらうには様々な工夫や課題が必要であると感じたので、学校現場の先生の苦労を大いに察することができる。

今日いただいた資料や先ほどの説明から、これからも外国籍児童数の割合が年々高くなることは予想できる。その中で外国籍の子供たちが安心して学校生活を送るには、学校側の運営の工夫、そしてその家族の理解と協力の歩み寄りがポイントになる。

先日の清水町の教育研究奨励賞を受賞された論文の中に、現在西小学校の『めぐみ学級』で外国籍児童を担当されている先生の取り組みの様子が書かれており、そこからは、現状の課題に対しての工夫、それから、熱意をもって広い視野で考えて学級運営をされていたことに安心と期待を感じた。その中で、外国籍児童の受け入れの工夫として、最初の2週間に初期指導期間を設けるシステムは大変効果的だと思う。これは、現場の先生のみならず、児童や家族の方の安心につながるので、今後も続けていきたいなと思った。

それから、以前、全国学力学習状況調査の町内の学校平均と県平均のデータを小中学校とも見せていただく機会があり、その中で、子ども達の得意とする項目点や課題

点がそれにより読み取ることができた。その中で疑問に思ったのは、今日いただいた資料の中で『学力保証』で未定着の生徒が、国語 84.7%、算数 74.6%、であったが、学力調査には外国籍の児童も全員含まれているのかどうか、そして、含まれている場合は、学習支援の進め方の様子を含め、その影響というのはどのようにあるのか。数字で出ており、その辺が大変気になったので伺いたい。

【委員意見】

私自身も西小学校と清水中学校でPTA会長を5年間務めてきて、雨の日には学校を休んだり、来日してから卒業式直前まで頑張ってきたのに親御さんの都合で卒業式の前日に帰国するなど、外国籍児童生徒の様々な事を見たり聞いたりしてきた。そのような中、今現在行っている、西小学校での外国籍児童の対応については、PTA、学校運営協議会の皆さんや先生方の協力により、ここまで来れたのかと思っている。

清水中学校では、学校運営協議会での「中学校に進学しても見放さないであげてほしい。」という声、をきっかけに、サマースクールやウィンタースクールとして、先生方だけでなく、地域や大学生・卒業生のボランティア、PTAサポーターなどにより、外国籍の生徒中心の個別学習の場が提供されている。このような活動は、これからも継続していただきたい。

私自身は、西小学校の外国籍児童への丁寧な対応が定着してきていることは理解しているが、最近、知人から聞いた話で、「引っ越しを考えているある保護者に西小校区を進めたところ、『西小は日本人の子も、普通級にいる外国籍の子に合わせた授業から始めているのであればいやだ。』と言われてしまった。」とのことで、「これは本当なのか。」と聞かれた。当然「そういうことはないですよ。」と説明したが、そのような誤解の無いように、今の活動の情報を発信していくことも大切であると思う。

学校現場は大変かと思うが、清水町の全ての子ども達の特徴をキャッチして、日本の子たちも外国籍の子たちも輝ける場面を少しでも多く作っていき、心の安らぐ居場所も作ってあげていただきたいと願っている。

【町長】

委員の皆様の提案や疑問点などに対して教育長並びに担当課からのコメント及び回答を求める。

提案・疑問点に対するコメント及び回答

【教育長】

皆様から、学校としての配慮や丁寧な対応、学校現場の努力まで評価していただきお礼申し上げます。

➤「学力学習状況調査に外国籍児童は入っているのか」

【西小学校 校長】

外国籍児童の学力学習状況調査については、普通に受けられる子は教室で受け、問題文の説明などの支援があればできる子については取り出しで行っており、そのような児童については得点が高く出ている。ただ、そのレベルに行っていない児童に関しては、テストを受けさせないで人数から抜いている。学力学習状況調査は2～3時間位かかり、日本語を理解できない子にとっては無駄な時間になってしまうので、別の個別学習を行うなど児童のレベルに合わせ対応している。

【教育長】

学力学習状況調査が始まった頃は、特別な指示が無かったため、全校児童生徒が受けることとしていた。そもそもテスト問題を読むことができないのに、3～4時間掛けて受けさせて、どのくらいの定着度があるか調べることに客観性があるかということが、当時話題となっていたが、そのような意味で、現在は学校の裁量により変わってきている。

➤「学校運営協議会のメンバーに外国人（外国籍の保護者）を」

【教育総務課参事】

学校運営協議会は学校を支えていただく大事な組織であり、重要であると認識しているので、御提案のように、外国人も含め、地域の方でも外国人の生活スタイルや行政への意見を言える方などを候補として考えていくよう、各学校にも伝えたいと思う。

【西小校長】

学校現場で外国籍の保護者の様子を見てみると、ダブルワークや夜間に働いてる方が多く、皆自分の生活で精一杯で、学校運営協議会に来ていただけるような保護者は思い浮かばないのが実情である。今の説明でもあったが、それらの様子が分かっている地域の方であれば考えられると思う。

➤「外国人の保護者会について」

【教育総務課参事】

保護者会のような組織は、継続していく事に大変エネルギーが必要となり、組織を立ち上げるには慎重に検討しなければならないと思う。現状では、行事ごとに、外国籍の保護者に説明を行うなど、きめ細かな対応に努めているので、引き続き対応の質を向上させていきたい。

【西小校長】

これまでも外国籍の保護者に対し、行事ごとに別室や別会場での対応に取り組んできている。

入学式では、担任からの話や説明等もあるので、本来は同じ教室にいるべきであるが、外国籍の保護者には別室に移動していただき、そこで手続き等を行っている。しかし、昨年度の入学式では別室での説明に2時間位掛かってしまい、午後の始業式に

影響してしまった。その反省から、今年度は入学説明会の数週間後に別の日を設けて改めて来ていただき、種類ごとにブースを分け説明するなどして効率よく手続きや説明を行い、入学式当日の負担を減らすような工夫をした。

➤「中学でのサポートの状況」

【西小校長】

西小学校の卒業生が進学する清水中学校でも、外国籍生徒に対応するための県の教員加配や町からの支援があり、西小学校と同様に丁寧に対応されている。

小学校とは違う課題として、中学では受験があるが、例えば、年齢相当では中学3年でも、学力や進学のことを踏まえ、保護者の了解を得ながら一つ学年を下げるなどの対応をしている場合もある。

➤「個人で用意している学習教材の共有化（公費負担により購入・一括管理）」

【教育長】

御提案のとおり、学習教材を共有する事のメリットもあるが、自分のものを大切にする心を育むという意味では、個人で用意して管理していく事も大事だと思う。

予算を伴う事でもあるので、担当課長からも回答する。

【教育総務課長】

学習教材費の公費での購入・管理について、かつて事例を調べたが、全国的にはまだ少ない状況である。学習教材の共有には、共有していく教材の選択、一括購入の予算と保管場所の確保などの課題があり、速やかに対応するのは難しいが、貴重な意見として検討していく。

➤「日本人児童の学力低下の不安について」

【教育総務課参事】

そもそも外国籍児童にも大きな個人差があるが、教師が外国籍児童の個別支援に時間を費やしていくと、日本人児童へサポートする時間が割かれることになってしまうので、基本的に、ある程度の外国籍児童への支援については、ここまでというラインで割り切ってゴールを求めている。ただ、特別な配慮を要する児童への授業を日々行っているという意味では、西小の先生方の授業力は大変向上していると考えられる。

そのような中、子どもたちには、他の学校では身に付けられないような、多文化共生の良い面も現れてきている。例えば、英語に苦手意識を持っている日本人の子どもが、外国籍の子が英語で話している姿を見ることにより、英語の良さも見えてきて、心配されていた友達関係についても、非常に仲良くやれているという良い面もあるので、学力や点数に現れない面でも、上手くフォローしていきたい。

【西小学校校長】

日本人児童の学力に影響があるかないかと聞かれれば、あると思う。外国籍児童に対する課題について、教師が個人個人に指導・支援をする時間を割かれていることか

らも、影響は出てきてしまう。ただ、個人個人への指導・支援は、外国籍児童に限ったことではなく、日本人の児童でも同様である。課題に対しての到達点は、皆に同じようなゴールを求めるのではなく、「この子はここまで頑張ればいい。」「この子はここまでできるように支援しよう。」と、一人一人を大切にしていける授業ができるかを重視している。

【町長】

皆様からの御質問御提案等について教育長及び事務局からお答えしたが、ほかに御意見等はあるか。

追加意見

【委員意見】

先ほどの回答では、学校運営協議会のメンバーに、外国人の方に入ってもらうのは難しいようであるが、外国人を雇用している企業側にもある程度責任があると思うので、企業や派遣会社から学校運営協議会に参加してもらうように働きかけができないか。そうすることで、実際に問題になっている校納金の未納などの解決につながるのではないかと思う。

【教育長】

学校運営協議会の目的からも企業が学校運営協議会に入るかどうかは何とも言えないが、企業の方とこのようなお話をする機会は持てるのではないかと思う。

【委員意見】

今回の議題に合う本として『やさしい日本語ってなんだろう』という新書を読んだので紹介する。

来日した外国人に対し、英語や母国語で対応しなければと思ってしまいがちだが、これから生きていくのが日本であれば、日本語で対応するのが本来の対応ではないかということである。本当に日本で暮らしていくならば必要なのは日本語である。

また、来日している外国人観光客の多くは、日本で観光したいから日本語を聞きたいと思って来ているので、「やさしい日本語」で話してあげれば、ある程度のことを理解できるそうである。

日本人が話している日本語は難しく、特に学習の中で使う日本語を外国人がどれだけ理解できるかという、学習の壁についても書かれている。

著者の岩田一成先生が、静岡県教育委員会で行った“学校内における「やさしい日本語」の活用を進めるモデル事業”の講師を務めており、その報告書が県のホームページに掲載されている。報告書には、学校のお知らせ文書を「やさしい日本語」を活用して読みやすい文書へ変換する内容が記されている。

この先生が、静岡県の教育にかかわっているのであれば、この先生から教えを乞うことも可能ではないかと思った。

【町長】

大変参考になりそうな本であるので、教育委員会事務局の方でも参考にさせていただきたい。

最後に教育長からの所感を伺う。

【教育長】

平成 11 年に、文部科学省の海外派遣研修でアメリカのアラバマ州内の学校をいくつか視察したが、そのうちの一つの学校での話をさせていただく。

その学校は技能教科の授業をほとんど行わず、全米テストで良い成績をあげないと補助金が出ないなどの理由で、数学や国語（英語）に力を入れており、国語が 1 日 3 時間もあった。その授業の視察時に、国語ができない子を先生が机ごと廊下に出していたので、授業が終わった後、その行為について「これでは、この子はもっと勉強ができなくなるんじゃないか。」と質問したら、その子はラテン系の移民で、「皆で一緒に勉強をやろうね、というのは綺麗ごとでしょ。この子がアメリカで生きていくためには、英語を覚えるしかないんです。」という話をされた。

西小学校や清水中学校では、学校を挙げて丁寧に対応しながら、「日本で生きていけるようにするんだ。」という気持ちを感じているので、教育長としてもできる限り応援していきたいと思っている。

【町長】

本日は、委員の皆様御自身が日頃から感じていることや、経験から導き出された御意見、御提案、御要望をいただいたところである。

皆様から、今後の運営についての様々な御提案をいただき、共通した御意見として、今の外国籍児童生徒の対応について大変評価していただいた。

町の教育行政として様々な問題を抱えている中、外国籍児童生徒への継続した支援の重要性について、今日の会議を通じ改めて感じたところであり、特に、日本にきた直後からの初期支援が重要であることがよく理解できた。

また、教育委員会や学校現場で少しずつ工夫しながら充実させてきた支援体制であるにも関わらず、現場の先生方の苦労や困惑が増えてきているという事がうかがい知れたので、今後の町からの支援の拡充についても考えていかなければならないと感じた。

今後においても、委員の皆様から、御意見、御提案をいただきながら取組を進めていき、清水町の教育が子どもたちにとって、より良いものとなるよう努めていく。

(2) その他

【委員意見】

学校現場では外国籍児童生徒に対し、できる限りの対応をしていることは理解しているが、清水町で生活する外国人に対し、ゴミの出し方のルールや清水町で生活する上での心得など、外国人向けの教室を町で開いたらどうか。

また、広報しみずや町のホームページなどにルビを振るなど、外国人が見やすいような配慮がなされると、外国人にとってはありがたいと思う。

【町長】

現在でも、国際交流協会への委託事業で、外国人を対象とした日本文化交流教室を行っており、その事業の一環として、ゴミの出し方など生活に関する教室を行っている。また、企業によるサポートという面では、町に外国人が転入する際、住民課で外国人登録の手続きをしなければならないが、その時に企業の担当者が随行し、手続きのサポートをしていただいている企業がある。そして、その企業を通して、ゴミの出し方教室などを行ったこともある。

多くの在住外国人に、生活に必要なことを伝えることは大切なことだと思っているので、貴重な御意見として参考にさせていただく。

その他、皆様から御発言がないようであれば、議事を終了する。

本日は、率直な意見交換が出来たことに、大変感謝している。

また、皆様から御提案いただいた意見等については、今後、町や教育委員会での検討に活用していければと思う。

議事を終了し、事務局に進行を戻す。

【事務局】

令和6年度第2回清水町総合教育会議 閉会